

被災地へ向け復興を願いメッセージ 国営備北丘陵公園でフラワープロジェクト

REPORT 4

東日本大震災からの復興を願い、花を植えてメッセージを描くイベントが3月11日、国営備北丘陵公園で行われました。

昨年3月11日に発生した東日本大震災からちょうど1年のこの日、この震災を忘れず、一日でも早い復興を願い、みのりの里駐車場脇の芝生斜面に、縦3m、横17.5



▲「がんばろう！日本」とメッセージを発信

mの大きさで『がんばろう！日本』と花で描き、被災地に向けメッセージを送りました。

花文字は、黄色と青色のスイセン、パ

ンジー、ピオラ計2,800株を来場者と公園スタッフで植栽。この日は、雪が舞う寒さでしたが、一株一株丁寧に植えていました。

広島市から訪れた橋本真由さん(小学3年)は「とても寒かったけど、頑張っていました」と話していました。



▲植栽する参加者

日ごろの備えで火災を防ぐ 西城学校給食共同調理場で火災想定訓練

REPORT 5

春の火災予防週間に合わせた「火災想定訓練」が3月2日、西城学校給食共同調理場で実施されました。

参加した同調理場の調理員7人は、庄原消防署西城出張所の鉦谷邦昭出張所長の指導のもと、蓄圧式消火器を使用して消火訓練を行いました。

講評で鉦谷出張所長は調理場で特に注意すべき点などを挙げながら「消火器は初期消火に有効だが、逃げ口を背にして安全を確保し、火の状況によっては逃げる決断も大事」と話していました。

参加した調理員は「消火器の使い方や、いざというときの対応がよくわかり勉強になった」と話していました。



▲消火器による消火訓練の様子

里帰りで話芸を披露 落語家 林家ひろ木さん

REPORT 6

小奴可の里自治振興区が主催する「小奴可の里コンサート」が2月19日、小奴可研修センターで開催されました。

第1部の落語会では、東城町内堀出身の落語家林家ひろ木(本名:沖上比呂志)さんの古典落語『子ほめ』が演じられ、口の悪い若者がご隠居から人の褒め方を教わる話に、会場は笑いの渦に巻き込まれました。

第2部では西城ブルーハーモニー吹奏楽団の演奏会もあり、多くの観客は巧みな話芸と演奏で楽しいひと時を過ごしました。

高座を終えたひろ木さんは「顔なじみの皆さんの前で緊張した。少しでも故郷に貢献できたらうれしい」と話していました。



▲落語を披露する林家ひろ木さん

優勝願い庄原市カーブ応援隊が日南へ 日南、由宇と一致団結してカーブを激励

REPORT 1



▲日南、由宇、庄原と野村監督で記念撮影
ゆるキャラは日南市の「にちなんぢゃ様」

一行は、カーブの応援を通して交流を深めている広島東洋カーブ日南協力会、山口県岩国市の広島東洋カーブ由宇協力会とともに野村謙二郎監督を激励。

各団体が激励の品として特産品を持ち寄るなか、庄原からは昨年11月に「大阪府民の”いっちゃんうまい”米コンテスト」でグランプリを獲得した東城産の米や、高野りんごのアップルパイなどを手渡しました。

庄原市カーブ応援隊の訪問団11人が2月19日、カーブのキャンプ地、宮崎県日南市の天福球場を訪れました。

庄原市カーブ応援隊を代表してあいさつした矢吹有司副市長は「市民4万人が応援団。マツダスタジアムの収容人数に近い人口なので、庄原市民でスタジアムを貸し切ってみるのも面白い」とユーモアを交え庄原をPRしました。

投手力のアップで評判が高まる今年のカーブ。今年こそ優勝ができるよう、庄原からも熱い声援を届けていきましょう!

カーブ応援隊の参加申し込みは専用番号(☎0824-73-0919)まで。



▲野村監督に庄原の特産品を届け激励

小学生の交通事故防止を願って 庄原・東城地区交通安全協会が交通安全啓発品を寄贈

REPORT 2

庄原地区交通安全協会が3月7日、市役所を訪れ交通安全啓発品を寄贈しました。これは、同協会が子どもの交通事故防止を願って毎年行っているものです。

この日行われた贈呈式では、管内で新しく入学する小学生用ランドセルカバーと交通安全下敷き、新2年生用に反射キーホルダーが交通安全協会の藤本重夫会長から滝口季彦市長に手渡されました。

また、東城地区交通安全協会も東城地区の新入学児童ヘラントセルカバーと交通安全下敷きを配布しました。



▲藤本会長(右)が滝口市長へ寄贈目録を手渡す

地域の資源や伝統を知ろう! 高野春待ちのつどい

REPORT 3

下高自治振興区と高野里山倶楽部が主催する「高野春待ちのつどい」が3月4日、下高自治振興センターで開催されました。

このイベントは、地域の資源や伝統をもっと知ろうということを目的に開催されたもので、町内から26人が参加しました。

この日は、下高自治振興センターに常設されている石釜で20枚ほどのピザを約3時間かけて焼き、山間部の伝統の春の飾りである「もち花飾り」を参加者全員で作成しました。

参加者は「石釜で焼いたピザがとてもおいしかった。また参加したい」と喜んでいました。



▲もち花飾りを作る参加者

いろんな米粉料理にチャレンジ

口和自治振興区が米粉活用料理講座

 **REPORT 7**

口和自治振興区主催による米粉を活用した料理講座が1月21日・2月18日・3月9日の3日間、口和町コミュニティセンターで開催されました。3回シリーズのこの講座に、延べ45人が参加しました。

初回のピザ作りでは、アーミッシュの宮野雅子さん(口和町)指導のもと、昨年開催された米粉を使った料理を競う「米-1グランプリin庄原」でグランプリを受賞した「米粉ピザ」づくりに挑戦。その後の回では、東城町の末広真理さんを講師にパンやロールケーキ、シュークリームづくりが行われました。

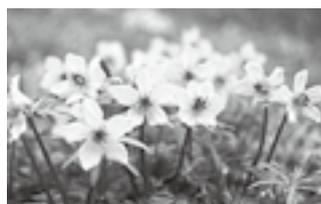
参加者からは「米粉で作った料理を食べる機会は少ないので、今後は自宅でも作ってみたい」と話していました。



▲米粉レシピを学ぶ参加者

ひと足早い春の訪れ

里山へ春を告げる花「節分草」祭

 **REPORT 8**


毎年恒例の節分草祭が3月4日、総領町の道の駅リストア・ステーションで開催されました。

節分草祭は、毎年節分草自生地公開期間中の3月第1日曜に実施されているイベントで、期間中で最も多い人出があります。

今年は、1月の雪の影響で節分草の開花が遅く、この日も5分咲き程度の開花でしたが、会場はエコストーブづくりのワークショップや地元出身歌手のコンサートが

行われたり、自治会や地域団体のさまざまな出店が並んだりして、市内外から訪れた多くの人で賑わいました。

自生地周辺を訪れた人は、山野草を見ながら散策し、春の訪れを感じながら総領町の自然を満喫していました。



▲会場の様子

まちづくりは農業と観光にあり

比和で「まちづくり&農政講演会」

 **REPORT 9**

「まちづくり&農政講演会ひわ」が3月13日、比和文化会館で開催され、60人が参加しました。

第一部の農政講演会では、藤本農園代表取締役の藤本聡さん(東城町)が「次世代へ引き継ぐ農業」と題し講演。藤本さんは「合鴨農法などを通じて都市部の人との交流を行いながら、自然豊かな庄原の農業をどんどんアピールしてファンを増やしていきたい」と熱く語っていました。

続いて第二部では、クラスターのまち実現プロジェクトの取り組みとして、まちづくり講演会が行われました。広島県観光アドバイザーの有田隆司さんが「わがまち自慢

でまちおこし」と題し講演。「子どもたちが地域自慢をするような町になれば人は観光にやってくる。ぜひわが町自慢をしてほしい」と話していました。

参加者からは「具体的な内容でわかりやすかった」などの感想が聞かれました。



▲講演する藤本さん